

**長寿のために
長年続けていることとは**



はぎ
芽子の会短歌会代表
松浦眞ツ江さん(101歳)

松浦さんが96歳のときに出版した書籍「短歌を詠む人のための歌謡と歴史」。
代表を務める芽子(はぎ)の会で取り扱った古代から近代までの歌謡と歴史をまとめたもの。

もはやそれは生活の一部

毎月一回開催されている短歌会、芽子(はぎ)の会で代表を務める松浦さんは、101歳の年齢を感じさせないほどの短歌の名手です。日々の出来事を織り交ぜて詠まれた短歌は洗練され、1世紀に渡る松浦さんの歴史を感じさせる、詠んだ人と対話したくなるような短歌です。もはや生活の一部となつている短歌こそ、松浦さんの健康長寿の秘訣です。

**いつしか代表を
務めるまでに**

元々文学に関する関心が強く、武雄高校卒業後は大学でも文学を修めた松浦さん。卒業後は武雄高校で長年教師を勤められました。短歌との出会いは昭和43年、当時もつとも大きい団体だったコスモス短歌会に所属し、短歌の腕を磨いたそうです。その後も研鑽を積み、平成10年より芽子(はぎ)の会短歌会の代表を務めておられ、短歌歴は80年にも及びます。



若い頃の松浦さん(一番左)
武雄高等女学校時代の庭球部の友人たちとの一枚。

欠かせない家族の存在

松浦さんの日々の生活には息子の康夫さんの存在が欠かせません。毎日生み出される短歌は、康夫さんとあれこれ議論を重ねる中で生まれるそうです。お二人は短歌を愛するもの同士、強固な信頼関係で結ばれているように感じました。現在源氏物語のまとめ作業にも取り組んでいる松浦さん。今後の夢は、「変わらず毎日を元気に過ごしていくこと」です。その目は生き生きとし、明日への期待に満ちていました。

息子の松浦康夫さん



**百寿超え
二度目の源氏物語も面白
皆わかるようまとめさせねば**



雨ニモ風ニモ負ケズ

「私は観光ガイドの他にも50年ほど前から毎日三間坂駅の掃除をしています。これが楽しくて、雨にも負けず、風にも負けず、毎日街のために体を動かすのが健康につながっているんですよ」と笑顔の松尾さん。
お二人は、愛する故郷のために何かをしたいという思いを行動に移し、多くの人との交流を通じて刺激を得ることで、健康で充実した日々を過ごされています。

**元気の秘訣は
会話すること**

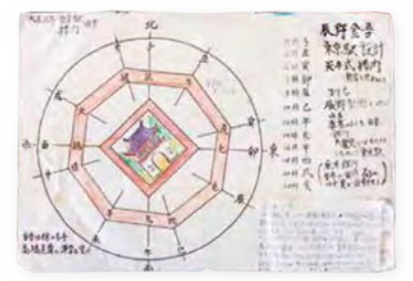
ガイドをされているお二人の様子は本当に楽しそうに生きています。話を聞いてもらうことで元気がになります。元気の秘訣を伺うと、「ボランティアガイドを通じてたくさん会話するからでしょうね」と二人とも声を揃えて答えられました。平成19年からガイドとして活動を始め、多い時には2人で100名のお客さんに対応したこともあるそうです。
「毎回違うお客さんと話すので、脳が若返る気がします。また来るねや、また来たよのお客さんの言葉でまた次も頑張ろう!と思えます。こうして縁がつながっていくのは嬉しいことです」と清水さんは嬉しそうに語ってくださいました。



観光案内をするお二人の様子

**観光客を
惹きつける知識**

県下のボランティアガイドの中でも最高齢に近い清水達也さんと松尾和男さん。そのきっかけは足取りと話しぶりからに到り底考えられませんが、なんと御年88歳とのこと。お二人は毎週武雄温泉の楼門干支見学会のガイドとして活躍されています。その知識の幅広さと奥深さは聞いている観光客も驚くほどで、武雄温泉の歴史から武雄市全体の歴史、ひいては武雄を取り囲む周辺地域の歴史など多岐に渡ります。



松尾さん手づくりの観光案内用の資料。楼門の干支の配置や、武雄と周辺地域の昔の様子がわかる。

**故郷のために
働きたいという想いが活力**



観光ボランティアガイド
清水 達也さん(88歳) 松尾 和男さん(88歳)